

●調査研究委員会

(1) 第1部会「新荷役システム調査研究委員会」

①調査研究テーマ

効率的なコンテナヤード配置及び国際コンテナ戦略港湾の国際競争力強化のための荷役システムのあり方に関する調査研究（継続：一部新規）

②調査研究活動報告

当委員会が提案する新しい縦型配置ターミナル（新方式）に関し、シミュレーションを実施し、移載エリアを中心にボトルネックの原因とその解消方策について検討を行った。

また、コンテナターミナルにおける ISO のあり方について検討を行った。

更に、遠隔操作型 STS クレーンの標準仕様について、要求水準や海外事例について検討を行った。なお、この標準仕様の検討結果については、横浜川崎国際港湾株からの受託事業で実施した「遠隔操作ガントリークレーンの標準仕様ガイドライン検討会」において活用し、当該検討会の成果として、「遠隔操作コンテナクレーン標準仕様ガイドライン（第1版）」を取りまとめた。

(2) 第3部会「付帯施設標準化調査研究委員会」

①調査研究テーマ

クレーン構造物および付帯機器の防食技術の調査研究（新規）

②調査研究活動報告

令和7年度はコンテナクレーンの新造時に使用される塗料のメーカーに対して調査票やヒアリングを通して塗料の仕様や塗料をとりまく環境規制の動き、ISO12944 の規格化された塗装とその寿命の評価について調査している。他公共設備等での仕様書への反映の例などを調査し、今後コンテナクレーンへの共通仕様にどのように反映するか引き続き活動を行う。

(3) 第4部会「荷役機械用電機設備調査研究委員会」

①調査研究テーマ

コンテナクレーン製作工事共通仕様書の見直し（継続）

②調査研究活動報告

機械関係の仕様内容は除き、仕様書全体にわたって電気関係の記載内容の確認を行った。現状仕様書には、当該仕様とした理由がわかりにくい箇所が散見されるため、これらについては解説に詳細な説明を追記し、仕様書作成者および発注者の双方にとって理解しやすい仕様書となるよう整理した。

特に、DX（デジタルトランスフォーメーション）に代表されるデジタル技術の進化により選択肢が多様化していることから、想定される選択肢について具体例を交えて解説に記載し、容易に選定できる構成とした。

なお、変更箇所については赤字で明示し、前回作成時からの変更点が一目で分かるよう配慮した。